

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標	具体的取り組み	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	最終結果	分析（成果と課題）及び次年度への課題
1	<p>授業実践力の向上</p> <p>① 教科の単元計画ファイル作成を行う。教員は年間指導計画、指導要領のポイントがわかる資料、児童生徒のアセスメントをあらかじめ綴じてあるファイルを用意し、単元計画の際にはそれを参考にしながら計画を立て、授業実践を行い、結果を記録し、次回の授業につなげる。</p> <p>② ICT研修を行い、教員のICTスキルを向上させ、日々の授業でGIGAスクールで整備されたiPad端末を使用した実践を行う。</p>	<p>【努力指標】（教員）</p> <p>7月と12月にアンケートを取り、単元計画ファイルを作成して授業改善に取り組んでいる教員の割合を測る。</p> <p>4：ファイルを作成し、授業改善ができています。</p> <p>3：ファイルを作成し、ある程度授業改善ができています。</p> <p>2：ファイルを作成したが授業改善ができていない。</p> <p>1：ファイルを作成していない。</p> <p>【努力指数】（教員）</p> <p>4月、7月、12月に教員のICT活用指導力チェックリストで教員のICTスキルが向上しているか測る。</p>	<p>アンケート結果が</p> <p>A：4と3合わせて80%以上</p> <p>B：4と3合わせて70%以上</p> <p>C：4と3合わせて60%以上</p> <p>D：4と3合わせて60%未満</p> <p>【達成目標B以上】</p> <p>チェックリストの教員の合計得点が4月に比べて12月段階で</p> <p>A:120%以上</p> <p>B:115%以上</p> <p>C:110%以上</p> <p>D:110%未満</p> <p>【達成目標B以上】</p>	<p>授業改善が未実施の教員に対し、直接改善の方法を提案し、授業ファイルで改善したことを確認した。</p> <p>アンケート結果は4と3合わせて83.3%となった。</p> <p>【A：80%以上】</p> <p>チェックリストの合計得点の平均値が</p> <p>4月 26.3点</p> <p>8月 31.4点</p> <p>119.5%の上昇率であった。</p> <p>【B:115%以上】</p>	<p>成果として、教科の単元計画ファイルの作成により、指導要領に準じたためあての作成や、指導計画、実施における教材、反省等の記録ができ、授業改善が進んだ教員もいた。一方、日々の実践、準備の時間が多くなり、記録等をとることが難しくなった教員もみられた。改善できなかった教員に3学期直接提案することで、改善できた。</p> <p>課題としてファイルの形式にこだわらなかったことで、何を記録するのが曖昧になった。また複数のファイルを担当する教諭はすべてのファイルを充実させることが難しかった。</p> <p>次年度は国語、算数、数学、生活単元等作成する教科を厳選し、記録するひな形を用意する必要がある。</p> <p>成果としては習熟度に応じた課題、グループ協議、児童生徒の表現、話し合い等の指導が130%以上の上昇率であった。一人1台端末の成果が表れた。</p> <p>課題としては来年度から高等部生徒にも一人1台端末が配備されるので、高等部の生徒にあった指導法を研修する必要がある。</p>
2	<p>組織的・体系的なキャリア教育</p> <p>① お手伝い・家事マスターチャレンジを企画する。教員は児童生徒が意欲を高められるようにキャリア教育の視点を持って指導する。家庭へは進路だよりを通してお手伝い・家事分担の種類や意義を周知する。</p>	<p>【満足度指標】（保護者）</p> <p>7月と12月にアンケートを取り、児童生徒に家庭での役割があると感じていると答えた保護者の割合を測る。</p> <p>4：大変あると感じる</p> <p>3：ある程度あると感じる</p> <p>2：あまり感じない</p> <p>1：全く感じない</p>	<p>アンケート結果が</p> <p>A：4と3合わせて80%以上</p> <p>B：4と3合わせて70%以上</p> <p>C：4と3合わせて60%以上</p> <p>D：4と3合わせて60%未満</p> <p>【達成目標B以上】</p>	<p>「大変あると感じている」8名「ある程度感じている」7名「あまり感じない」4名「全く感じない」1名という結果だった。「大変あると感じている」+「ある程度感じている」が全体の75%であった。</p> <p>【B：70%以上】</p>	<p>成果として、お手伝い・家事マスターチャレンジの企画をしたことで、児童生徒が意欲的にお手伝いや家事に取り組むことができた。また、進路だよりを通して「お手伝いの意義」等を周知したことで保護者の理解も進み、児童生徒が家庭での役割があると感じた保護者が増えたと思われる。</p> <p>課題としては、チャレンジ期間だけに限らずお手伝いや家事を毎日の「習慣」・「役割」として継続できるよう工夫していければよい。</p>

3	安心・安全な学校作り	① 学校安全としての「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3領域について、自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、社会の安全に貢献できる資質・能力を育めるよう取り組む。	【努力指標】（教員） 「安全に関する指導の内容例」を基に、学部毎で取扱う項目を検討し、アンケートにて取扱った割合を評価する。	学部毎に取扱った割合が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成目標B以上】	学校安全に関する内容を取扱った割合は、 小学部79.3% 【B：70%以上】 中学部88.2% 【A：80%以上】 高等部78.7% 【B：70%以上】	各学部において、児童生徒の実態に応じた学校安全の指導に日常的に取り組んでいることが分かる。成果としては、避難訓練で自ら行動したり、学習活動の準備や片付けを安全に進めたりする様子が見られた。 課題として、今後も継続した指導を、学部や学校全体で取り組んでいく必要がある。
4	業務の効率化	① 書類や電子データの整理、優先順位を決めて業務に取り組むこと、今年度の反省を生かし来年度の書類を準備しておくことなど効率的に業務を行う工夫をして業務に取り組む。	【努力指標】（教員） 8月と1月にアンケートをとる。 4：工夫をして業務に取り組むことができた大幅に効果があった。 3：工夫をして業務に取り組むことができなかったが効果があった。 2：工夫をして業務に取り組むことができなかったが効果がなかった。 1：工夫をして業務に取り組むことができなかった。	アンケート結果で「工夫をして業務に取り組むことができ効果があつた。」(4+3)と答えた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成目標B以上】	「工夫をして業務に取り組むことができ大幅に効果があつた。」3人 工夫をして業務に取り組むことができやや効果があつた。14人 89パーセント 【A：80%以上】	資料のデータ化やハンドブック作成などの工夫による成果には個人差はあるが、業務を効率化しようという意識を教員一人一人がもつことができたことが大きな成果といえる。 課題としては、来年度も教員数の減少による一人一人への負担が増えることが予想されるため、さらに改善の意識を常にもちながら業務に取り組んでいくことが考えられる。